

2018 年 11 月 15 日号	J A C O O 会 N E W S L E T T E R	発行：日本山岳会 O O 会 発行人：佐藤 允信 編集者：本間 正士
-------------------	---------------------------------	--

＜守屋山（1650.6m） 長野県（諏訪市と高遠町）＞

期 日： 2018年7月19日（木）晴れ『猛暑』

参加者： L 酒井、佐藤、綿貫、副島、綾部、平、吉田（記）7名、

集 合： 茅野駅 午前10時10分

10日以上も猛暑日が続いていた。暑さから一刻も早く抜け出たくて6時35分発の松本行きの普通列車に乗った。茅野駅着9時23分。少しは涼しいのではと期待してホームに下りたが八王子と大して変わらない。改札口に着くまでに汗が噴き出してきた。酒井さん副島さんがすでに涼しい待合室に入っておられた。待つ間にも副島さんお勧めのキヨスクのアイスコーヒーで一時暑さをしのいだ。

横浜線電車が遅れたとかで7名全員が揃ったのが10時20分頃（？）予約のタクシー2台に分乗して10時30分出発。高遠方面へ125号を杖突峠に向け走る。峠への登りにかかるのと八ヶ岳など眺めが良いはずだが今日は霞の中にボンヤリ・・・。

15分ぐらいで守屋山の登山口駐車場に着く。タクシーを降りると先ず沢山の太陽光発電のパネルが目に入り、その多さにうあーすごい！と声をあげてしまった。そこと駐車場の間の林道入り口には沢山の土嚢が積み上げられていてそれにもびっくり。7月6～7日の西日本や岐阜・長野県などを襲った記録的豪雨の時のものと思われる。副島さんの準備体操と水分補給をして出発。直ぐ先の林道にも深くえぐられ出来た川の爪痕が・・・。それをヨイショと飛び越えて登山口に入る。

そこから先は酒井さんから配布の地図を見て「新ハイキング」の記事を思い出しながら林道と登山道の交差する道を進む。標識がしっかり着いていて安心。樹林の中の道は涼しいので救われた。花の宝庫とあるので楽しみだ。道々には木イチゴにヒョウタンボクの紅い実、ウツボ草、沢筋には種の付いた九輪草もみえた。

最後に歩きやすい林道を進み先ずアカエ沢の源頭に着いた。カラマツ林の緩やかな傾斜の広場だ。数人の作業員がいて丁度草刈りを終えたばかり、草の臭い

がした。「まだ整備が終わっていないが上の方のテーブルがいいよ」と教えてくれた。キャンプ場になっているらしく炊事場、トイレもある。ザゼンソウは網で囲われた所かな？囲いの中は草がのびているので確認はしなかった。

副島さんの「ここでお昼にしよう！」のかけ声に「え！まだ幾らも歩いていないのに・・・」早すぎるのではと思って時計をみるともう12時に近い・・・納得！わいわい言いながら昼食を頂く。汗をかくので塩

気のが殊に美味しい。

小屋の背後を流れる小川（沢）のみずが綺麗で私はそこが気に入った。水芭蕉も少し咲くらしいので春先にも訪れてみたいと思った。

林の奥に祠がある。その先を登り左に回り込むように行くと守屋山への登りが始まる。笹の茂った

急な登りが続き、緩くなったかと思うとまた急登になり・・・暑さであせが噴き出る。水分補給をしながらすすむが直ぐに口が渇く・胸突き坂では本当に苦しかった。

綿貫さんと酒井さんは東峰までにすると言われたので我々5人は立石コースへの分岐（1605m）（13時27分）で一服してから東峰への尾根道を進む。雑木の樹林が疎らになって岩が見えてくると間もなく東峰、13時41分着。岩の多い山頂には大きな方位盤と（神宮寺生産森林組合の設置した）守屋山山頂（1631.2m）の標識が有った。霞で展望はきかない。直ぐ右下には鉄柵で囲まれた祠（守屋山奥宮）があった。西峰へと急ぐので落ち着いてお参りも出来なかったが鉄柵には御幣の白い紙が絡み付いてなんか気になった。嵐のいたずらか。

次の小ピークは樹林の中の中嶽、手前の草むらにコバノイチヤク草（白色）が丁度見頃に咲いていたが写



真に撮り損なって残念。大木に掛けられた中嶽（1643 m）の標、毛無の木（ブナ）にしめ縄、カモシカ岩の案内などは斜め読みして進む。山頂近く右手に避難小屋があった。綾部さんが戸を開けてくれて中をみせてもらう、小座布団が並んでいた。「風を入れておこう」佐藤さんの声かけで帰りまで開放した。・・・これも一善！

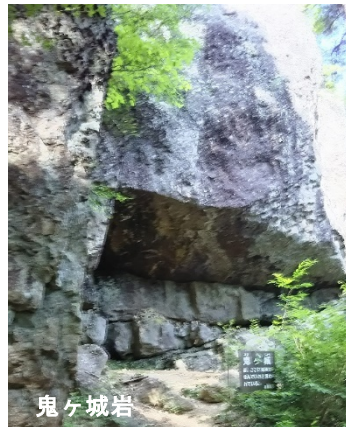
守屋山・西峰到着 14 時 01 分・(1650.3m)・立派な一等三角点に皆がタッチ・守屋山の標識の根元にナデシコの花が可憐に咲いていた。広い山頂は周りに立木もなくて霞さ

え掛かっていなければ素晴らしい眺めであらうに、今日は遠くに車山と眼下に諏訪湖と周辺の街がボンヤリ見えただけだった。秋の良い日にここでゆっくりお弁当を広げたいな・・・

「また来てくりよ・・・」諏訪の衆の

声が聞こえたような。・・・小休憩をしてお二人の待つ東峰へと引き返す。東峰 14 時 41 分、1 分間滞留在して立石分岐へ向かう・下りに掛かって一瞬だが、太陽光のパネルの反射が見えて朝の登山口方向を確認できた。

二人に追いつき 7 人一緒に石立コースに入る。胸突き坂の反対側でやはり急坂の下りだ。転ばぬよう慎重に歩き“前岳休憩”で一服。さらにジグザグにどんどん下る。正面に大きくて上が真っ平らの大岩が現れた。しっかりした梯子が取り付けられている。“登ってみたい”という衝動に駆られる・・・危ないよと反対の声



でその気持ちを引っ込めてしまったがやはり登ってみるべきだったと今思う。そこが立石で、本道だったかもしれない。その岩を避けるように右側の道に進むと



その先には滝見コース(?)の分岐も有った。所々に奇怪な大きな岩が現れる。それぞれに、それらしい名前が付けられていた。鬼ヶ城、屏風岩、親子岩、平成のビーナス、十字岩、他怪しげな名前も有った。最後の岩に「岩巡りコース」の看板があって我々はそのコースを下ったことになる。そのすこし先に酒井さんの考えていたコースの分岐の標識が有った。ここからの道は左へほ

ぼ水平に回り込み、緩やかな傾斜をしばらく下る。古い別荘が何軒もあり車の音が聞こえて来ると 152 号に・脇に立石登山口の標柱が有った。(16 時)・立石コースもまた趣のあるコースだった、

守屋山は地元の人達には馴染みの山なのだと言うことが登り下りの随所から感じられた。迎いのタクシーで茅野駅へ、16 時 40 分頃着。茅野駅では副島さんに計算を任せきりで、やはりアイスクリームやアイスコーヒーで喉を潤さずにはいられなかった。(お先にごめんなさい!) 誰も熱中症にならなくて良かった。17 時 28 分の特急で皆座って帰れた。リーダーの酒井さん、お世話になりました。

＜上高地山行 3 コースを歩き山研で合流＞

山研を利用して上高地に入り、各自の力で登りたい山に行こうという計画が立てられ、綾部さんが日程など計画してくれた。綾部さんは愛猫の具合が悪く一緒にできなかったが、①奥又白池、②前穂高、③岳沢小屋の 3 つのコースでそれぞれ山歩きを楽しんだ。

① 奥又白池 徳沢ロッジ→奥又白池→徳沢ロッジ→山研(佐藤 記、吉田、酒井)

9 月 19 日(水): 酒井先輩と吉田さん 2 人と松本駅で合流、10:15 発の上高地直行バスに乗車、12:00 着。2 階のレストランで昼食をとり山研に立ち寄る。20 日宿泊用の荷物を預かってもらい、徳沢ロッジ明朝 6 時に奥又白池を目指すことを伝える。また富山の金尾さ

んから 20 日宿泊予約が入ったことを確認する。しばらく休憩した後徳沢ロッジまで歩いてチェックインした。

20 日(木): 昨夜用意してもらった弁当を持って 6 時に出発した。今日は雨になる予報が出ている。新村橋を渡って林道を歩く。しばらく行くと丸太 2 本にア

ルミ板を乗せた栈橋を渡る。若山五朗の慰霊碑の手前で酒井先輩が帰ることになった。中畠新道分岐迄歩くことになっていたが雨の予報で早めに帰ることを決断したということです。

これより2人の登山となった。慰霊碑で参拝し中畠新道分岐 7:40 着、右にパノラマコースを分けて、松高ルンゼを目指して直進する。ルンゼ左岸の尾根に登るのが尾根の岩に緑のプレートがはめ込んであり、その右を回り込むように取付き口があった。

ここから樹林の中の急登が始まる。一度ルンゼの左岸をトラバースするが、花崗岩が劣化したときの砂混りの斜面は滑りやすく注意を要する。行程中段差のある所にトラロープが7本位下がっている。道標は奥又白池まで全くない。途中で下山の若い男女とすれ違った。奥又白池でテント泊して絶景を堪能したそうだ。

2200m位でかなりきつくなってきたが、吉田さんの登頂意欲の旺盛さに刺激されて元気づけられた。2300mあたりを過ぎると、ダケカンバやナナカマドの木々の背が低くなり、前穂四峰下部を南方向にトラバースして樹林を抜けると突然奥又白池に出た。丘のような

所にあり、池の前方には前穂高東壁、北尾根、左に明神岳など岩壁が屏風のように立ち並んで大迫力だ。ロッククライミングの聖地であり、小説の舞台になった所でもありしばらく見とれていた。11:45 着、写真を撮り、簡単に食事をとっていると 12:00 雨が降り始めた。

雨具を着け 12:25 下山開始、途中本格的な雨になった。細く急坂なので慎重に歩く。トラロープの下降は特に注意する。分岐が近くなると松高ルンゼの左岸



奥又白池にて

トラバースは雨の中滑りそうで緊張した。尾根の取付き口に着いた時はホッとした。中畠新道分岐 15:45 着、新村橋 16:50、徳沢ロッジ 17:10、ここで吉田さんの預けた荷物を回収、山研に電話する。仲間が大変心配していたということで急いで山研に向かった。明神でヘッドランプを装着、19:25 山研到着。同行仲間皆さんを始め、金尾誠一氏も含めて一緒に心配して頂いたことに感謝、感謝でした。

夕食を挟んで山研修繕の工事立ち合いに見えていた安井康夫理事も一緒に就寝迄団欒を楽しんだ。

② 前穂高岳登山 岳沢小屋→前穂高岳→岳沢小屋→山研（副島）

19日：岳沢小屋、4時40分起床、5時30分から朝食をとり、今日も小屋に宿泊するので計画より遅く6時25分に弁当を受け取り出発しました。足がツラ無い様、ダブルストックを使って注意しながら歩きました。紀美子平に10時前にヤット到着。頂上まではすれ違う事が難しい狭い所もありましたが、遅かったのでマイペースで登る事が出来ました。前穂高岳の標示柱の左手は奥穂高岳、右手は槍ヶ岳、そして白山、乗鞍岳、燕岳、等々がクッキリと望めました。満足して下山しましたが、途中で多くの人に抜かれて周囲には登山者は見当たらなくなりました。何でも無い様な道で判らなくなり、立ち止まっていると、若い3人のグループが追いついて行ったので、山道を見付け

て戻りました。この後、彼等は老人の道迷いを心配し



て前方を見え隠れしながら間を空け過ぎないように立ち止まって「こんなにユックリ歩いては トレーニング

にならないヨ?」と声が聞こえましたが時々止まってくれたようです。

垂直な鉄製梯子の上で 降りるのを待っている間に水分を取った以外は、約1時間40分の間頑張っ

て歩き、小屋の手前の沢で若者達が集まって話をしている所を通過する時、お礼を述べました。そんな訳で とうにか16時に岳沢小屋に到着出来ました。

連泊サービスの生ビールを注文し、憧れのデッキで青い空を眺めながら頂上を思いだし、そして正面の上高地を見下ろして飲みました。痛風は明日から考える?『爺は生きています?』と実感しました。

20日(木)は昼食を上高地で食べるだけです、本間・綿貫組が岳沢を登ってくるので、時間はたっぷりあります。朝食後は殆どの人が出払って空いたデッキに座り、側の給水口から山の清水をコップに注ぎ入れてガスコンロで2回も沸かして、`これぞ究極の山を楽しむ?`とのんびりとコーヒータイムを味わいました。

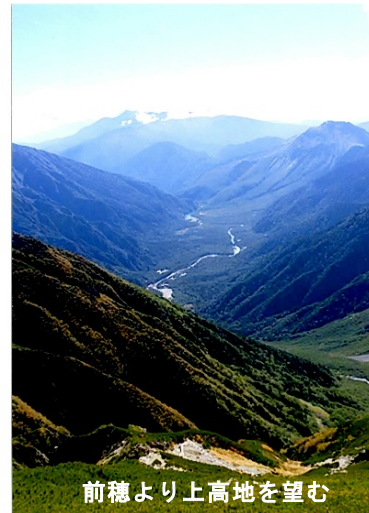
下山途中の 名物の風穴の近くで 登ってきた本間・綿貫組と会いました。下山後一足早く戻ってきた綿貫さんと上高地アルペンホテルでゆっくり昼食をとり、河童橋を渡り、ビジターセンターを見学して、ブラブラしながら山研へ戻り、酒井さんと合流しました。

今日の山研宿泊は、金尾さんと我々6名、山研運営委員の安井理事の8名で早めに風呂につかり、未着の佐藤、吉田両氏を待ちました。

暗くなっても2人から連絡が無いので、酒井氏はメールを送ったり、宿泊した徳沢ロッジに問合せを入れたり、本間氏も、副島も、電話をしましたが連絡が取れず心配していたところ、午後5時24分、吉田さんから「徳沢に着きました・・・」と携帯に返信がありました。このモヤモヤした空気が一辺に払拭され、電

話を聞いて安心したこともあり、お酒が何倍も美味しく思えました。

19時過ぎに 雨の中を急いで歩いて来た佐藤・吉田組



前穂より上高地を望む

が濡れ鼠で到着しました。待っていた全員で ザック、カバー、雨具、靴、等を地下の乾燥室へ運び、順番に風呂へ入ってもらいました。やっと全員がそろい料理を盛り付けて揃って楽しい懇親会になりました。

富山の名物の蒲鉾の

昆布巻き、蛸烏賊、黒づくり、北アルプスからの含流水で仕込んだ日本酒?「立山」「劔」を 差し入れて戴きました。

21日(金)雨降りの朝、今日はのんびりと6時30分頃まで横になっていました。ザックを荷造りして、

お茶、コーヒーを飲んで、楽しんだ山研を8時30分頃 雨の中へ出発しました。

バスセンターでバス乗車の整理券を受け取り、2階の殆ど観光客のいない食堂へ入り朝食をとり、金尾氏は10時発のあかんだな駐車場行きのバス、

我々は10時05分発の新島々駅へのバスと別れました。

東京方面の6人は 新島々駅で電車に乗り換えて 11時55分 松本駅へ到着、外は雨、駅ビルの蕎麦屋で信州蕎麦の昼食を頂き、解散して 帰京しました。

それぞれの登山を極め、十分に 楽しい企画でした。計画して下さった綾部さんに御礼申し上げます。



山研食堂にて全員そろって懇親会 2018/09/20

③ 岳沢小屋 大正池→田代池→河童橋→山研→岳沢小屋→山研(綿貫、本間 記)

19日：新島々で綿貫さんと合流。12:50 発のバスで上高地へ、山の日の記念行事で皇太子さまが来られたことで道路整備が一気に進んだという。天気が良かったので大正池で下車、池に出てみた。穂高の山々が池の演出で美しかった。目前には、以前登った焼岳が迫り、山頂付近からはあちこち白い蒸気が噴き出していた。暖かく澄み切った空を背景にした静かな景色だった。林の中の木道に沿って歩き田代湿原に出ると正面に雄大な穂高が見える。のんびり梓川沿いに歩き河童橋の賑わいを見ながら山研に入った。

20日：朝食を済ませ、7:20 過ぎに出発。足腰の調子で行動範囲を決めようという2人であるから急ぐことはない。昨日の晴れが信じられないような曇り空、予報は午後から雨になるという。岳沢登山口に入とうっそうとした樹林帯の中を登る。途中、下山の年配夫婦に出会う。随分早い時間だなと思ったが、綿貫さんが昨夜山研まで帰れなくて岳沢小屋に泊まった人たちと看破し、管理人が心配しあちこち連絡を取っていたことを話していた。携帯電話を持っていなかったようだが小屋から連絡できたはずだ。迷惑な事である。しばらく登った所で下山してきた副島さんと会う。ちょっと話をして我々はもう少し登ることにした。今日は足の調子がいい。樹林帯を出てガレ場の横に出たところが小屋までの中間点で上高地全体、西穂高がよく見える展望所である。9:25 綿貫さんと別れてガレ場沿いの道を歩き、急斜面の「胸突き八丁」(2030m)を登

り切り、ガレ場をトラバースして少しの登り 10:25 に岳沢小屋にでた。宿泊客はほとんど出発しており広いテラスもほぼ独占状態だった。ビールでも飲もうと思ったがここは少し寒い。結局持参したポットの湯でスープを作り、近くには奥穂高からのつながりの天狗岩をまじかに見、下界の梓川の流れと遠く乗鞍の山々を



見ながら早い昼食でのんびり過ごした。曇ってはいたが時折ヘリが飛ぶだけの静かな居心地のいいテラスであった。

天気の変わる前に下山しようと 11:10 に小屋を出発。12:10 見晴らし到着、休憩中にぽつりぽつりの雨が降り急いで降りることにした。幸い雨は大したことはなく樹林帯では雨具は必要なかった。風穴を過ぎて笹の広がる緩やかな斜面で中型の熊を目撃、10m程離れていたのを目を合わせないように腰痛も忘れて一段低い登山道を駆け下りた。途中びくびくだったが 13:15 登山口まで下りてホッとした。雨が本格的になり、傘を出して川沿いの遊歩道を歩いて 13:30 山研に戻った。

<奥多摩BC泊、御嶽神社とむかし道を歩く>

期日：10月11日(木)～12日(金)

参加者：副島(L)、佐藤、佐々木(11日のみ)、綿貫、綾部、吉田、山城(12日のみ)、本間(記)

中央線の遅れではらはらしたが、青梅で全員顔をそろえる事が出来た。対岸の山にはガスが掛かっていたが天気は何とか持ちそうな気配で予定通り 11:20 御嶽駅下車、バスで滝本駅まで行きケーブルカーで御嶽山上駅に行く。紅葉にはまだ早い参道は静かで、何度か歩いた歴史を感じる御師集落を見ながら歩きお土産の店の間を過ぎると広場に出



る。舞台があり11月に「天空芸者ナイト」が開催されるという。八王子芸者の踊りと座敷を天空で経験できると言っていた。ここから長い石段を登り 12:35 御嶽神社に参拝、迎えてくれた大きな狛犬は、長崎湖原爆公園の平和像を制作した北村西望の作だという。茶店でゆっくり昼食、途中ビジターセンターで動植物を学び、逆コースで

御嶽駅に到着、15:50 駅ホームで日帰りで帰る佐々木さんと別れ、奥多摩行きの電車に乗る。運よく2日目参加の山城さんと車内で会う。奥多摩駅近くにあるJAC多摩支部の奥多摩BCに入る。ここは会員の実家であるが空き家になったのを有志が日曜大工で改装して宿泊できるようにしたもので隣がコンビニなので便利であった。寝床を確認して、近くの日帰り温泉「もえぎの湯」に行き温泉につかり、夕食をとって 19:00 BCに戻った。

2日目は夜半に強い雨音で起こされたが、6時のコンビニ開店の頃にはすっかり天気は回復していた。8:06 BC前のバス停から奥多摩湖に向かう。8:20 到着、ガスもどんどん上がり天気も良くなってきた。奥多摩湖を見ながら準備体操をして

8:50 出発、青梅街道を横切り「奥多摩むかし道」にはいい。この道は、旧青梅街道をたどる道で、神社やお地蔵様、吊り橋、古民家集落など、奥多摩の厳しい自然を共にする歴史が詰まった、奥多摩湖（小河内）から奥多摩駅（氷川）に達する約10kmの道である。

山道になりしっかりと登りが続き「青目立不動尊（休日は休処として開放）」横を通り、尾根に出る。浅間神社のあたりでは小河内ダムを見下ろす事が出来た。山の斜面に点在する中山集落の庭先を通りすぎるようにして進む。見事な景色であるが斜面に作った畑を耕すには年老いたおばあさんには厳しかろうと思いながら縁側で休んでいたおばあさんに挨拶した。坂道を180° Uターンして11:30 西久保見晴らし広場で休憩、ここには立派なハイテクトイレが設置されていた。深い溪谷がよく見えた。紅葉の時期はさぞかしきれいだらうと思いながら、木々の間から時折見える溪谷美を楽しみながら歩いた。11:50 道所橋から溪谷を見下ろし、歯痛でどうすることもできなかった昔、炒った豆をお地蔵さまに供えて祈ったという「むし菌地蔵尊」、馬を休めた「馬の水飲み場」、細い山道で谷底に落ちて

亡くなった馬を供養した「がんどうの馬頭様」、を見ながら当時の苦労を思った。11:25 しだら橋に出る。つり橋の上からは「惣岳の荒」と言われて多くの巨岩が水の流れに立ち向かう溪谷美を見せていた。12:00 崖っぷちにそそり立つ「いろは楓」に到着、樹齢200年余りという立派な楓であり、紅葉の頃は素晴らしい景色を作ることだろうと思った。しばらく平坦な道を歩くと片腕がすっぽり抜ける穴の開いた高さ3mぐ



らいの岩がある。「弁慶の腕ぬき岩」である。その近くには「白髭神社」が道沿いの小高い所にあった。石段を登ると社殿を覆いかぶさるように巨大な石灰岩が露出している。埼玉県日高町の高麗明神を移したものでその主神は高麗王若光で、髭髪が白かったので白髭明神と

なったそうで、唐と新羅との戦争に敗れた高句麗の人たちが日本に逃げ、その人たちの指導者が若光であったという。古代の信仰が山奥に生きていることはロマンを感じるとともに驚きでもあった。

常にこんこんと湧き出ている名水で名のある「境の清泉」で12:30になったので、ここで散策を切り上げるようになった。12:55 発のバス時間まで余裕があったので副島さんたちが栽培しているワサビ田を見に行った。道路から5m程下がった斜面に青々と元気に育っていた。

境橋からバスで奥多摩駅方面へ、BCの前で下車し荷物を置いて予約していた近くの食堂で遅い昼食をした。帰りにむかし道の案内板のある所をちょっと横道にそれて、ダム建設の資材を運んだ鉄道跡を見に行くことにした。緩やかな羽黒坂を登ること10分余り、草にうずもれている線路が続いていた。線路伝いにトンネルを通りBCに戻ったがトンネル出口には「通り抜け禁止！マムシに注意！」の看板にぞっとした。

BCの掃除と片付けをして15:32 発の電車で楽しかった思い出とともに帰宅の途についた。

＜裾野市愛峰山の会・JAC九五会&〇〇会合同山行 大沢爆裂火口にマグマ道を探しに行こう＞

愛鷹連峰 大沢登山道沿いに2100年前の水蒸気爆発によって露出したマグマの道を勝又さん達が発見していましたが、その確認と解説を地質学専門の福岡孝昭先生にお願いできたことでこの探索会が実現しました。(企画：勝又一步)

期日：10月20日(土)～21日(日)

場所：愛鷹連峰 大沢登山道源頭部

〇〇会からは佐藤、副島、綿貫の3名が、九五会とともに前日の20日に「大野路」に宿泊した。当日17時からJAC会員と須山口保存会の参加者に勝又一步さんから須山口登山歩道復活の経緯と現況について

説明があった。

富士山を世界遺産にするために尽力された渡部徳逸氏の苦勞や功績が披露された。その中で渡部徳逸は病気のため退会したJAC再入会で〇〇会に特別会員になった

たことを非常に喜んでいただけたことであつた。(2015.11.01号〇〇会会報「富士須山古道を歩く」)

翌21日は、早朝から快晴無風で宿舎から正面に迫力ある富士山を眺めることができ感動した。8時30分、大沢入林道 山神社駐車場に当日参加の須山口保存会と山岳協会の皆さんと合流し、20名を超える賑やかな大集団になった。

山岳協会、勝又さんの山行主旨と歓迎挨拶の後に、副島さんの入念な準備体操を済ませて出発。須山大沢沿いに杉林の道を進み、ほどなく沢の淵を歩いたり横断したりして、浮石に注意しながら緩やかな登りを進む。大沢橋を過ぎると間もなく林道が終点となり、官

地・民地を分ける碑を見て、位牌岳から流れ下る北沢と松永沢が合流する出会いに到着。どこでもあるような出会いに見えるが、ここが火口底の末端であるとの説明を受ける。



出会いから狭い尾根道を一息で2

100年前に水蒸気爆発によってマグマ溜りが噴出してマグマ道が滝状に壁面から流れた様子が見えた。九五会の地質学者である福岡孝昭さん

による解説を聞いたが、私には予備知識もなくむずかしかった。群馬県の子持山ではマグマ溜りが良く見られ、また岩手山でも柱状に連続している(柱状節理)のが見られるとのことだった。

この場で昼食をとり、体力を考慮して割石峠までの当初の計画を断念して引き返すことにした。途中の岩石の説明を聞きながら山神社まで下りた。

勝又さんも計画責任者として事故無く全員無事下山できたこと、大怪我の後久しぶりの山行であつたと聞いたが、最後まで一緒に行動できたことを共に喜びたい。またとない好天に恵まれて、ゆっくりした山行に大満足でした。

＜雑感＞ 金尾 誠一

2000年入会同期の会「〇〇会」、今も元気に活動されています。その様子をいつも、本間さんからレターを送ってもらい、敬服していました。私自身は、なかなか一緒に行動することができず、残念でした。ただ、「〇〇会」は少人数ですが、個性的な、こだわりが感じられる山登りをしてもらいました。レターからは、佐藤会長を中心に、メンバーが集って、楽しい山行をしておられる雰囲気が伝わってきます。定期発行はなく

なるそうですが、不定期でも結構ですので、続けてもらえると嬉しいです。これまで担当されてきた本間さんには、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

この「〇〇会」の活動は、山岳会でもあまり知られていないと思いますが、ほんとに良い会です。是非、今後もよろしくお願いいたします。機会があれば私も参加したいと思っています。

富山支部は、今年創立 70 周年でした。私が生まれる少し前からあったということは、大変なことです。北アルプスの名山が身近にあることが、とても大きいと思います。その 70 周年を機会に、私は課題の提案をしました。「播隆上人」が復興された笠ヶ岳登山道は、「幻の登山道」と言われています。これを再再復興しようという提案です。これまで、上宝歴史研究会や飛騨山岳会などが、謎の解明に取り組んできました。さらに現在は、「ネットワーク播隆」会員も熱心に活動してい

ますが、いまだ「幻」のままです。

富山支部は、これまでも「播隆祭」などで播隆の顕彰に努めていますが、さらにこの活動に参加しようという試みです。さっそく支部に「播隆研究会」を発足し、有志で活動を始めています。文政 6 (1823) 年、播隆が初めて笠ヶ岳に登り、その後多くの人々を誘った信仰の道は、歴史の中に埋没しています。なんとか信仰の願いを達成したいものだと思っています。

< 〇〇会 山行の思い出 > 副島 一義

・何と言っても スイスでツエルマット、グリーンデルワルド、に各 1 週間滞在したことです。スイスガイドを長い間務めた菊地雄吉さんの案内で、小さな村から今日はこっちの山、明日はあっちの山、そして山小屋での貴重な体験もしました。憧れのアルプス・4000m 越えのメンヒ登頂は、高度順応が出来て、素敵なガイドに確保され、安心して急で細い雪の尾根を先頭で下山する事が出来ました。又、この時の登っている様子を 菊澤さんが撮影して下さって、凄い事を体験した、と今でも茶の間の写真を（ウツトリと）見ています。

・それと何年間も登山条件が合わないで、延び延びになった佐武流山です。本当に「バテて」「止めます」と根を挙げた山行でした。佐藤允信会長からの優しい激励で何とかヤット登頂出来ました。感謝です。帰りの渡渉でひっくり返り、塗れた服のまま車の荷物置き場に座り込み、切明温泉で風呂に直行して、服を順番に脱ぎながら洗濯した事も思い出します。・花の思い出は、御在所山での白やしおのトンネル と厚木の奥山の仏果山での霜柱の群生地です。

編集後記

◇ 前号でこの会報もいったん区切りをつけようということが話し合われたことをお知らせしました。思わぬ人たちからねざらいのメールもいただきました。ありがとうございました。2001 年 6 月 9 日(土)～10 日(日)、忍野村の杉並区「富士学園」に 30 名の仲間を集めて『〇〇同期会』結成記念集会が実施され、2 日目に高座山登山前の記念写真を思いでとして添付しました。。若々しい元気な姿が懐かしく思い出されます。



- ◇ 三渡初代会長より結成当時の資料と写真を送って頂きました。当時の会報は会長の手書きの FAX と佐野さんがワープロを駆使して緻密な編集で発行されており、ご苦労様でした。
- ◇ 大沢爆裂火口マグマ道探索の企画は、雪化粧の富士が素晴らしい天気で迎えてくれたようです。小生もその日の午後に新幹線で通り過ぎましたが参加出来なかったのが残念でした。何よりも勝又さんが元気に回復されていることを皆さんと一緒に喜びたいと思います。
- ◇ 〇〇会はまだまだ続きます。いつでも参加をお待ちしています。また原稿があれば不定期に News Letter が発行

されればと思います。長い間ご支援ありがとうございました。(本間)